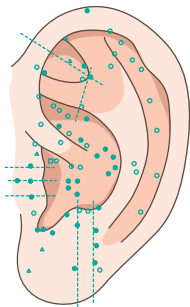


身体のサインは「耳」に現れる!



東洋の「耳針療法」と、
西洋の「オリキュロセラピー」を融合した

耳ツボセラピー

私たちの心身の不調はさまざまな形で現れますが、中でも耳は“健康のバロメーター”と言われるほど、多くのサインを発してくれます。110ものツボが存在する耳へのセラピーを行っている白髭ゆかりさんに、耳ツボセラピーの特徴と施術の方法を聞きました。

取材・文◎岡田光津子

白髭ゆかりさん しらひげゆかり

MokuOLA salon&school 主宰。2014年世田谷区にサロン&スクールをオープン。2021年沖縄にもサロン&スクール開校。現在は横浜1店舗、沖縄で3店舗経営。また今年、ミセスグローバルアースビューティーキャンブ本部特別講師も務める。



耳に存在する110のツボを
刺激し、症状にアプローチ

もともと色が心身に及ぼす影響などを学ぶカラーセラピーに興味があったことから、当初はシンプルで美しい「耳ツボジュエリー」に惹かれたという白髭ゆかりさん（ボディケアサロン「MokuOLA」主宰）。

耳ツボジュエリーとは、耳ツボ療法の施術で使うチャタン粒のシールにライオンストーンを施した、一見するとピアスのようなもの。けれど、実際に施術を学ぶうちに、耳ツボの奥深さに魅了されていったといいます。

白髭さんが学んだ耳ツボ療法には、東洋医学に基づく耳針療法と西洋医学に基づくオリキュロセラピーと2つの流れが組み込まれていました。

「まず耳針療法ですが、こちらは東洋医学の経穴の流れから派生したもので、不定愁訴や病気がある時、その部位に呼応するツボに刺激を与えると症状が緩和されるといわれています。全身に約360のツボがあり、それ以外にも耳には約110ものツボが存在します。足裏と同様に全身の各部位や臓器のツボが所在し、そこをチャタン粒の付いたシールで刺激することで、症状にアプローチすることができます」

一方のオリキュロセラピーは、1956年にフランスの神経科医ポール・ノジェが開発した耳介療法のこと。東